

下松市議会

議員定数調査特別委員会 報告書

令和7年9月

議員定数調査特別委員会

1. 議員定数調査特別委員会の設置

●目的

議会を取り巻く環境の変化(人口、財政、役割)や市民のみなさんの意識など、様々な視点から適正な議員定数について調査・分析をするため

●委員会の構成(8人)

委員長:金藤哲夫 副委員長:磯部孝義

委員:木原愛子、近藤康夫、三浦徹也、森 良介、守田文美、柳瀬秀明

●設置期間

令和7年2月17日から議決まで

2. 調査結果

●議員定数の結論

議員定数は、18人とする。

●理由

委員会にて、適正な議員定数の調査分析するための資料(県内他市や類似団体の状況、議員活動や議員構成の状況、人口と議員数の経過、市財政に占める議会費比率、過去の議員定数調査特別委員会での議論経過など)や、市民のみなさんの意見を収集する方法を議論検討した。

その経過を踏まえ、調査資料としてのまとめや、市民アンケート・意見交換会の実施を進め、それらの結果資料を基に各委員が分析し、考えの整理を進めた。

合計11回の委員会の中で、第10回、11回では、現状維持(20人)と削減の意見[4. 委員会での主な意見]があった。

最終的には委員会として定数18人を提案し、賛成4名(委員長を除く委員7名)となったため結論としたものである。

3. 委員会他の開催状況

回	日付	議題	議論内容要旨
1	R7. 2. 17	○委員長・副委員長選任	
2	R7. 3. 18	○今後の日程見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・調査に必要な資料の検討 地方自治法改正概要、 過去2回の特別委員会の要旨、 県内13市の議員定数状況、 類似団体(人口5~6万人)の議員定数状況 ・今後の審査日程、進め方 月2回程度、全議員への中間報告実施、 秋には結論を出す
3	R7. 4. 9	○検討に必要な資料 ○今後の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・調査に必要な資料提示 県内他市の議会基本条例の議員定数部分、 前回の特別委員会の市民アンケートや意見 交換会の状況、 議会活動(一般質問、議員提出議案など)状況 ・市民からの意見聴取方法の検討 アンケート、意見聴取会(訪問市議会方式)
4	R7. 4. 23	○追加資料確認 ○市民(団体)への意見 聴取の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・調査に必要な資料提示 他市(光市、山陽小野田市)の議員定数変更時の経過、 市財政(予算決算)に占める議会費の割合 ・市民アンケート決定、方法や内容検討 二次元コードでの実施、議会だより掲載、 くだまつメールでの発信 ・意見聴取会の検討 方法や団体の検討 市の会議や協議会に参加している団体など
5	R7. 5. 14	○市民アンケート ○団体への意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート内容の確認、決定 議会だより6月号に掲載、5/20 からくだまつメールで 発信、各公民館にポスター掲示 ・団体との意見聴取方法、団体の検討、 開催日(7/9)決定
	R7. 5/20 ~6/30	《市民アンケート実施》	回答数: 425件 二次元コードから回答(市議会だより6月号に掲載、 ホームページからもアクセス) アンケート結果は資料参照

回	日付	議題	議論内容要旨
6	R7. 5. 28	○団体との意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会の団体決定 13団体 案内文確認 ・意見交換会に提示する資料検討 委員会調査資料、議会の仕組み、アンケート、 本会議委員会の状況、 これまでの市民からの意見(前回委員会時のアンケート、報酬審議会での意見、総合計画市民アンケート) 〈意見交換会の案内を持参:趣旨説明し出席依頼〉
7	R7. 6. 11	○意見交換会 ○今後のスケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会に提示する資料の検討、チェック 委員会調査資料、議会の仕組み、アンケート、 本会議委員会の状況、 〈意見交換会出席者に事前資料を持参、送付〉 〈調査資料等を市議会ホームページに掲載〉 調査資料等は資料参照
8	R7. 7. 4	○意見交換会 ○今後のスケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会での各委員の役割 当日の進め方、役割分担
	R7. 7. 9	〈市民との意見交換会〉	<ul style="list-style-type: none"> ・市内12団体の代表の方と意見交換実施 事前配布資料持参～アンケート記入 意見交換会結果は資料参照
9	R7. 7. 16	○アンケート結果報告 ○意見交換会報告 ○中間報告	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート、意見交換会まとめ資料確認 ・これまでの経過を踏まえた各委員の意見 ・中間報告に向けた検討 報告内容、役割の確認
	R7. 7. 25	〈中間報告〉	<ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 議員定数調査特別委員会の中間報告 委員会調査の経過(調査資料、市民アンケート・意見 交換会の結果報告など)、各議員からの意見、 今後のスケジュール(案)説明
10	R7. 8. 8	○各委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・調査資料等の分析 ・議員定数についての意見
11 最終	R7. 8. 25	○各委員の意見 ○議員定数結論	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数についての意見 ・定数18人提案:賛成4人 ・委員会結論「議員定数18人とする」 ・報告書作成は委員長、副委員長に一任
	R7. 9. 25	〈委員長報告〉 本会議	

4. 委員会での主な意見

《第10回:8月8日》

○皆さんからいただいた貴重な声を基に減らした方がよいと思う

意見交換会、市民アンケートは貴重な意見。

市民のみなさんからの声は削減が多かったことを考えると減らした方がよいと思う。

減らすにあたって慎重な判断をしていかなければならない。

人口減少だからという声もあるが、一方で議員は市民みなさんの声にしっかり耳を傾け、市政に反映することが仕事であることから、みなさんと一緒に考えしっかり判断したい。

○市民の意見を尊重し、議員定数削減

議員が議員定数を決めることに疑義あるので、市民の意見を尊重したい。

市民アンケート、意見交換会とも約6割が減らした方がよいとの意見。

人口が令和2年度をピークに減少 議員が1, 2人減っても議員の負担は大幅に増えない。

人数が多ければ多いほど市政に対する意見を言える、民主主義の根幹的な考え方をどう捉えるか難しい。

執行部に対しての抑制力のための議員確保の必要性はあるが、人数では変わらない。

○議会は多様な各層からの意見が広く議場で展開されることが望ましいというのが大原則

市議会における財政への割合1%を下回っているのは非常に良好と言える。

市民アンケートや意見交換会で3割が現状維持との意見。

光市の議員定数18人、財政状況比較の現状から下松市20人は維持した方がよい。

市民の意向を忖度すれば、19人もひとつの考え方としてあるのではないか。

一定数を担保して新たな立候補者や若い世代の参入を考えなければならない。

○減についてはやむを得ない。定数減の声を真摯に受け止め定数減が妥当

将来的に人口5万人に近くなったときに定数減を考える時と考えていた。

各種団体との意見交換や市民アンケートから、定数減が約6割あり、議員活動が見えないとの厳しい意見もあり、真摯に受け止める必要あり。

意見の中で、現在19人で議会運営している事、人口5万人前後の類似団体では18. 9人、常任委員会も各6人で運営できると考える。

人口規模だけでなく財政規模、様々な意見を総合的に考え、定数減の声を真摯に受け止め定数減は妥当と考える。

3割の定数増や現状維持の声では、減ると地域格差が出る、身近な議員が減り地域の声が届きにくくなるとの心配、多様な議員が必要との声もある。今まで以上に議員力を高めて、活動の発信に努めていく必要あり。

○削減にメリットを見いだせない

アンケートでは、削減派には鋭い意見もあるが、感情に任せた意見もあり、現状維持派には冷静に分析されているように感じる。

多様化された社会や市政を少ない人数で見るのも困難。多くの考えで取組むのも選択肢。

少数精鋭に対し多数精鋭で。議会はスピード審議で効率的であった方がよいのか。

様々な意見をぶつけ審議する必要がある。削減でどれだけ効率が良くなるのか疑問。予算決算を議員がチェックすることで議員報酬をはるかに上回る削減が実現出来る。議員定数を減らせば女性や若い方の間口が狭くなる。議会の高齢化、現状の構成のままでは変化は望めず、新陳代謝は遠のく。経験豊富な議員も必要で現状の定数でベテランもいながら女性や若い人の門を開けておく状態が良いと考える。法定上限撤廃で、近隣他市、人口や面積での比較は意味がない、下松独自の考えに基づき判断することがよいと考える。削減のメリットを探す努力したいが、現時点では削減のメリットを見いだせない。

○現状維持で議員の質の向上に努める

アンケート減の理由は、議員の仕事が見えない、高齢化への懸念が多く挙げられていた。定数を減らし報酬を上げた方がよいとの声もあるが、議員の質の向上につながるかは疑問。冷静に、メリット・デメリットを考えてみると、減のメリットは財政負担軽減、ただ報酬アップなら同じ。デメリットは市民の声が反映されにくい、市政チェックの目が少なくなることが挙げられる。現状維持のメリットは、安定した議会運営、デメリットとしては人件費が変わらないなどが挙げられる。一人一人の質など不確定な要素で決めるべきではない。定数が減ったからと言って議員の質が上がることにはつながらない。感情だけで左右されることに疑問を感じる。現状で大きな問題があったとは言えない。現状維持で議員の質の向上に努めることが重要。市民に興味を持ってもらうよう、活動の可視化を全体で今一度考えるべき。今まで20人で下松市を創り上げられた議員に、こんなに人数はいらないとは言えない。

○3つの視点から総合的に18人もやむを得ない

いろんな立場、考え方、年齢層、いろんな人が集まるのが議会の強みで、それなりの人数20人が必要と思っていた。今回いろんな資料や調査をする中で18人もやむを得ないという思いを持っている。法定上限数が撤廃された中で、自主的な判断で定めることが基本的な考え方で、しっかりとした考え根拠をもって決める、市民にもきちんと説明できる定数を示さなければならないと思っている。

考え方は3つ。ひとつ目は議会議員の活動が実践できる人数ということ、多様で充実した議会運営ができる数は何人なのか。2つ目は人口や類似市の市政の状況や将来展望を考慮した人数ということ。3つめは市民の感情や思いで、全員に聞くことはできないので、今回市民アンケートや意見交換会を実施したが、そこで出た結果や意見、市民の感情思いを考慮した人数ということ。

議会運営の活動が実践できる人数という点では、市民の声や自分の思いを発言できる場である一般質問の現状は10～14人。常任委員会は今現状6、7人で運営。6人×3常任委員会の考えで18人で可能という見方もできる。議会費の割合は決算予算に対し0.8～1.0%。議員減の場合は報酬増や市民サービス向上につながる事業費に充てるのが可能という見方もできる。人口で見れば令和2年をピークに急激に減少している中で議員数は平成22年から変わっておらず、減という検討が必要な時期との見方もできる。類似団体の5～6万の人口規模では議員定数平均19.15人といった20人をきっていることも考慮する必要あり。無投票回避も大事。市民感情や思いでは、市民アンケートで貴重な意見を頂いた。意見交換会では委員会からの資料をしっかり読み込まれての発言が多く、それらを踏まえて定数を考えないといけなと強い思いを持った。3つの視点を総合的に考えて、18人はやむなしという思いを持っている。

《第11回:8月25日》

○意見交換やアンケートを重視し18人が妥当

現状維持を望む声には、議員が多い方が市民の声が届きやすい、減ると議員の地域格差や身近な議員が減り、地域の声が届きにくくなることから多種多様な議員が必要との声あり。定数減の意見が6割でその中の声は、議員活動が見えない、議員の質を問う厳しい意見あり。SNSを活用した議員活動など議会の見える化の必要あり。削減の声を真摯に受ける必要あり。現状19人で運営しているから19人でもよいのではとの意見も一理あると思う。しかし、議会運営上の常任委員会各6人が支障なく運営できると考える。意見交換やアンケートを重視し18人が妥当と考える。

○20人現状維持が妥当

現在の20から18人でも議会内容に変化はない。現状維持がいいのではないか。地域分けができない現状では、少数意見を反映する議員が減る可能性あり。議会は勢力に偏りがあっては駄目で、数の力に頼った議会になり、執行部の思い通りに進めやすくなることが懸念される。現状がそう感じる。20人現状維持が妥当と結論付けた。

○現状維持が良い

定数減、現状維持のメリット・デメリットを考えた時、不確定な要素が多いと感じる。ふわっとした内容で決めてしまうことは怖い。減のみなさんの意見を聞いて、現状維持の思い考えが変わらないということは、やはり減にはデメリットの方が強いと感じる。定数を減らすことで議員の質が上がるとは限らず、結局現状維持で一人一人の質の向上に努めることの方が重要ではないかと思う。市民の意見もあるが、興味を持ってもらえる活動内容の可視化をしていける全体での取り組みが必要と考える。

○2または3人減

議員としての緊張感を持つこと、日々の活動や市民の声を市政に届けることが大切。市民アンケートでは現状欠員1人でも問題なし。2減、出来れば4減というような声もある中で真ん中の3減もあってよい。

○2減の18人が妥当

議員の役割は執行部の監視、市政が正しく運営されているかチェックすること。本会議の審議や3常任委員会での審査が該当するが、現状19人で支障ない。6人ずつの3委員会18人でも十分可能。人数が減れば各議員の責任も増え、発言の機会も増え活発な議論ができると思う。議員の仕事は市民のみなさんの声を市政に反映していくこと。一般質問で議長を除き19人が登壇したことはこれまで一度もない。20人定員でなくても市民の声を反映する機会を確保できていける。各議員が議会でないところでの市民のみなさんの声を聞いて市政の反映している点は各議員によって活動に違いがあり、人数が多いほど市政に反映できるが、意見交換会において競争を促すことも重要との意見も何人かあった。我々は市民の意見を反映させるときの、やる気・モチベーション、何かを成し遂げたいという熱い思い、次の選挙に受かるという気持ちが必要。競争が促されるほど活動が活発になると思う。2減であれば市民の声を市政に反映する点も支障がないと感じている。

○現状の20議席が妥当 19人もひとつの考え方

議会は自治体にとって唯一の意思決定機関である。その重みを考えた場合に市民の市政参加の機会是一定数空けておかなければならない。下松市より人口が1万人少ない光市のことを考えると現状の20議席が妥当と思う。アンケートや意見交換会からどうしても削減した方がよいという考えに立てば、19人奇数の数字もひとつの考え方と思う。あまり減らして少数精鋭になるかという、必ずしも減らしたら少数精鋭になるとは限らない。議員のハードルを上げるのは如何なものか。一定数の議員数は必要で、財政規模は光市に比べ抜群によい。財政に対する議会費が1%に収まっているのであればいたずらに議席数を減らして市民有権者の政治参加の機会を狭めるというのは如何なものかと思う。

○次期からの定数 適正な議員定数は18人

3つの視点、1つは議会・議員の活動が実践できる、多様で充実した議会運営ができる人数で、3常任委員会6人で18人、一般質問の登壇状況から18人。2つ目として人口類似市の状況から令和2年をピークに1000人程度人口が減っていることは議員数も考慮すべき点、5万から6万の人口の市が65市で議員数平均19.15人、その内面積100㎡以下の市が33市あり、その内定数20の市が下松含めて3市、他は18人以下という状況。3つ目は市民の感情・思いといったところ、今回市民アンケートや意見交換会を実施し貴重な意見を頂いた。6割が削減という数字だけでなくいろんなコメントをしっかりと見ることが大事。増やした方がいい、現状維持の方の意見では、市民の声を反映できる、多様な考えのため、新たな議員のなり手の間口を確保しておくべきといった声があり、減らした方がいいという方の意見では、人口減少傾向、財源を福祉や未来の子どもたちへのサービスや施策に使えないか、無投票への危機感などの声がある。具体的な数字として半分、10人、14人、15人など厳しい数字も出ている。全体的には多様な人材とか若い人とか、地域の声を聞く、広域的な意見、市全体を見る目を期待する声がある。今の時代に合った議会のアップデートが必要かなと思う。政策・条例提案ができる議会、今以上に市民と一緒に考えていく議会といったところで、今まで以上に緊張感を持った選挙なり、選挙後の体制での議会改革運営が必要な時だと考える。総合的に分析し、次の一般選挙から18人にすべきと考える。

《参考資料》

＜市議会ホームページに掲載＞

○委員会調査資料

(設置の背景、議員定数の比較、人口と議員定数の推移、市議会議員選挙の状況、議員の処遇・議会の仕組みと役割、議会に関する費用が財政に占める割合、議員構成・分布)

○議会の仕組みと役割

○本会議の状況、委員会の状況

○市民アンケート、意見交換会の結果